

## 地域の将来像と福岡空港の役割

この章では、「地域(福岡・九州)の将来像」と「福岡空港の役割」について、順を追って説明します。

「地域の将来像」を描くにあたっては、対象年次は概ね2030年頃とし、着目すべき論点ごとに具体的な検討を進めました。論点として取り上げたのは「グローバル化」「少子高齢化」「地方分権」「価値観の多様化」「IT化(高度情報化)」「社会資本形成」「環境重視」の7つです。

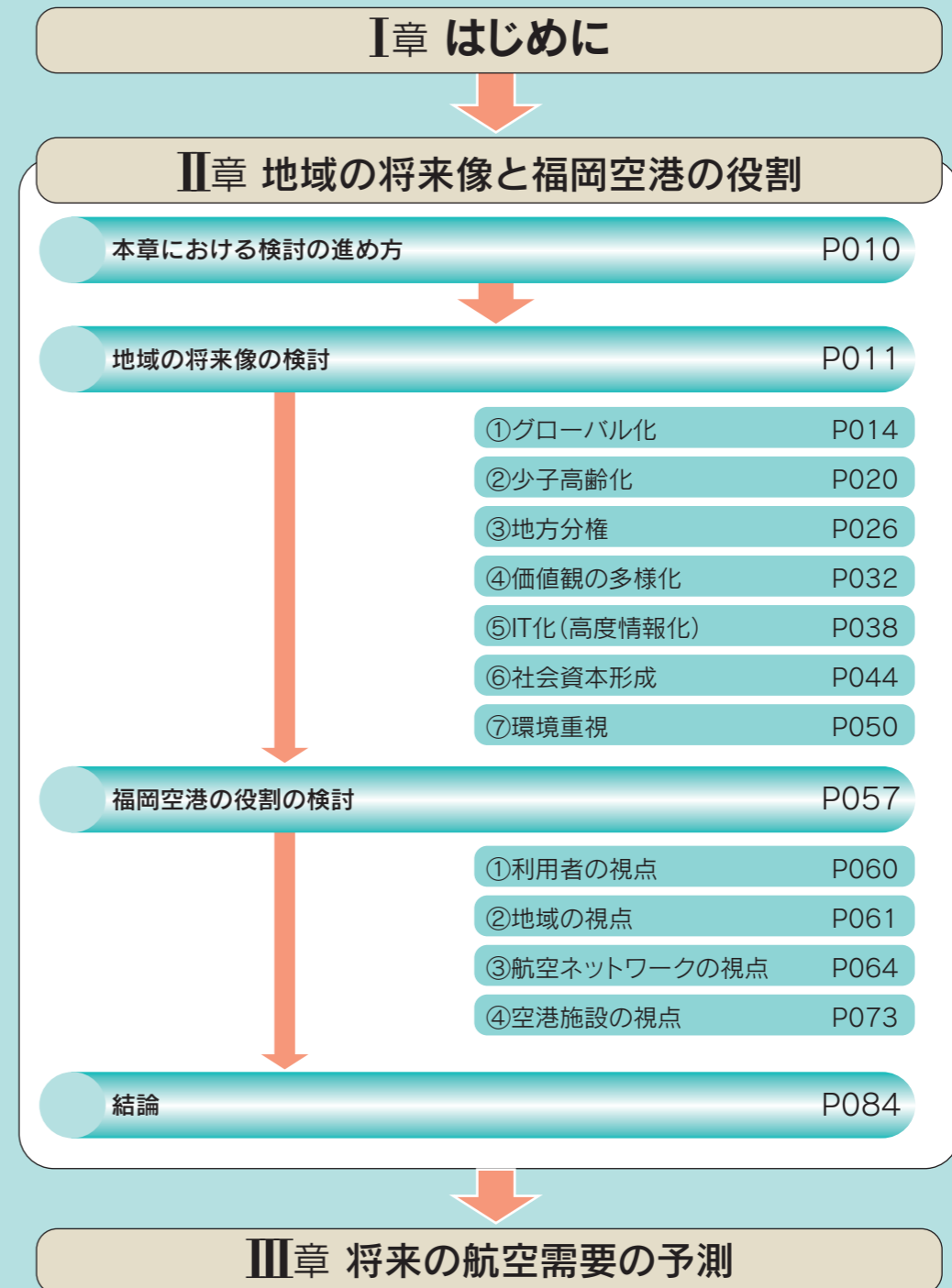
検討の手順としては、各論点ごとに、将来ビジョンの実現に向けて具体的に実施している様々な取り組みを再認識することからスタートしました。それにより地域が将来にわたって目指す全体的な方向性を確認し、その方向性に沿って将来へのシナリオを描きながら、今後地域が目指すべき将来像を描きました。例えば「グローバル化」であれば、近年ますます盛んになってきている東アジアと九州との交流やFTA(自由貿易協定)の進展による国際連携の強化に向けての取り組み等に注目しました。また、「少子高齢化」であれば、将来の生産年齢人口の減少が予想される中、交流人口の増大等による地域の持続的な発展を目指した取り組み等に注目しました。

このように地域が今取り組んでいる施策を見つめ直した上で、将来像を描いています。

次に「福岡空港の役割」についてですが、まず設定した「地域の将来像」を実現するために、また、「福岡空港の課題の解決」のために、福岡空港に求められる「役割」を導き出します。

福岡空港の課題解決に向けて求められる役割については、「利用者」「地域」「航空ネットワーク」「空港施設」の4つの視点から検討しました。

こうした検討の結果、4つの「福岡空港の役割」を設定し、それぞれ、「必要となる取り組み」についても示しています。具体的には、東アジアへの日帰り交流圏等、福岡・九州の持つ地理的な強みをより活かしていくために必要な「航空ネットワークの拡充」や、新規航空路線の開設や増便等による利便性の向上を可能にするための「空港容量の確保」等を導き出しています。



## 1. 本章における検討の進め方

## 本章の目的

本章では、PIステップ1で整理した福岡空港と地域の現状と課題を踏まえ、既にある様々な地域の将来ビジョンや航空・空港の動向等をもとに「地域の将来像」を検討します。さらに、その将来像実現や福岡空港の課題解決に向けて、求められる「福岡空港の役割」を検討することを目的とします。

## 検討の内容

## 1) 地域の将来像

地域の将来像については、まず着目すべき「論点」を既にある様々な将来ビジョン(以下「既存の将来ビジョン」と表記)や地域の現状と課題を参考に抽出し、その論点を中心として、概ね2030年頃までを対象とする地域(福岡・九州)の将来像を検討しました。

## 2) 福岡空港の役割

福岡空港の役割については、利用者からみた福岡空港の現状や福岡空港を取り巻く航空・空港の動向等を考慮した上で、地域の将来像実現や福岡空港の課題解決に向けて求められる福岡空港の役割を検討しました。

## 本章における検討のフロー

